

異文化間教育学会 第 42 回大会
日本国際理解教育学会 第 30 回研究大会
合同大会プログラム

2021 年 6 月 11 日（金）～13 日（日）

開催校：玉川大学（オンライン開催）



主催：異文化間教育学会・日本国際理解教育学会

共催：玉川大学

協力：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

後援：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

異文化間教育学会 第 42 回大会
日本国際理解教育学会 第 30 回研究大会
合同大会プログラム

2021 年 6 月 11 日（金）～13 日（日）

開催校：玉川大学（オンライン開催）



主催：異文化間教育学会・日本国際理解教育学会

共催：玉川大学

協力：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

後援：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

異文化間教育学会第 42 回大会

日本国際理解教育学会第 30 回研究大会

プログラム 目次

ご挨拶	3
大会日程	4
大会参加者へのご案内	5
共同企画 公開シンポジウム	10
ACCU ワークショップ	11
情報交換会	12

<異文化間教育学会第 42 回大会>

プレセミナー	14
特定課題研究	15
若手交流会	17
発表について	18
ポスターセッションへの参加方法	19
異文化間教育学会「優秀発表賞」について.....	21
発表プログラム	22
個人発表	23
共同発表	29
ケース／パネル発表	30
ポスターセッション	31

<日本国際理解教育学会第 30 回研究大会>

プレイベント	34
特定課題研究	35
発表について	37
自由研究発表プログラム	38

異文化間教育学会第 42 回大会・日本国際理解教育学会第 30 回研究大会 合同大会実行委員会	47
--	----

異文化間教育学会第 42 回大会・日本国際理解教育学会 第 30 回研究大会 ご挨拶

「新たな時代状況における異文化間教育と国際理解教育の役割 ― 国連SDGsの目標達成に向けた平和で持続可能な社会創りへの教育力をいかに担保していくか」

2021 年の異文化間教育学会第 42 回大会・日本国際理解教育学会第 30 回研究大会の合同大会を玉川大学で 2021 年 6 月 11 日（金）～13 日（日）に開催させて頂くことになりました。皆さまを心から歓迎いたします。この両学会の合同大会は、当初は玉川学園キャンパスにて開催させて頂く予定でしたが、新型コロナウイルス感染問題の収束が見えないことから、現地開催を中止し、全面オンラインでの開催とさせて頂くこととなりました。皆様には不自由をおかけして恐縮ですが、何卒よろしくご理解を賜りますようお願い申し上げます。

異文化間教育学会と日本国際理解教育学会との合同大会は、じつは「歴史的に」初めての試みです。このような変則的な大会形態になったのは、さまざまな接点はあるものの研究課題も射程も異なる異文化間教育学会と日本国際理解教育学会という二つの学会が協同して一堂に会することでシナジー効果がもたらされ、現代社会に有意義なメッセージを発信することができるのではないかという期待が両学会に共有されたことによるものです。基本的には両学会が自由研究発表や特定課題研究をはじめとする諸プログラムを同時進行の形で実施することになりますが、公開シンポジウムや情報交換会などのイベントは共同で開催する予定です。それにより、両学会間で情報共有や会員間の交流、コラボなどが促進されることを期待しています。また「コロナ後の時代」における異文化間教育と国際理解教育の課題を展望する合同大会の基調テーマとして「新たな時代状況における異文化間教育と国際理解教育の役割 ― 国連SDGsの目標達成に向けた平和で持続可能な社会創りへの教育力をいかに担保していくか」を掲げております。この関連で、ACCUのご支援を得て、SDGsを推進する国連の専門機関ユネスコ本部から、ユネスコスクール国際コーディネーターの齋藤珠里氏をゲストにお招きして講演して頂くことになりました。

玉川学園は大正新教育のリーダー小原國芳が全人教育の理念のもと 1929 年に創設した幼稚園から大学院までを 61 万平方メートルの広大なキャンパスに擁する総合学園です。教育博物館や、ミツバチ科学研究センター、脳科学研究所、植物工場など多彩な学内施設を誇る一方、ユネスコスクール加盟校でもある教育学部では SDGs/ESD カリキュラムの創設（学部改革）が進展しつつあります。創設時より「地球はわれらの故郷なり」という地球市民性の教育理念を掲げてきた玉川学園は、異文化間教育学会と日本国際理解教育学会の合同大会を開催させて頂くにふさわしい学園ではないかと自負しております。今回はキャンパスにお越し頂けず残念ですがコロナ禍が収束した暁にはホールスクールアプローチの魁でもある玉川学園キャンパスをぜひご訪問下さい。

気候変動や国際対立の先鋭化を含め、さまざま意味で先の見通せない「不確実性の時代」ですが、この初めての合同大会にて、参加者の皆さまの積極的参加により持続可能な人類社会の未来を見据えた実りある学際的な議論が展開されることを心から楽しみにしております。

異文化間教育学会 第 42 回大会・日本国際理解教育学会 第 30 回研究大会
合同大会実行委員会 委員長 小林亮（玉川大学）

異文化間教育学会第42回・日本国際理解教育学会第30回 合同大会プログラム

2021年6月12日(土)～13日(日) 会場: 玉川大学

大会日程

2021年6月11日(金) 異文化間教育学会プレセミナー 13:00～16:30

日本国際理解教育学会プレイベント 14:00～16:00

2021年6月12日(土)

	異文化間教育学会	日本国際理解教育学会	共通イベント
10:00	ポスターセッション	10:00-12:00 自由研究発表	10:00-12:00 ACCU ワークショップ
12:00	(非同期型) 12:15-13:15 質疑応答 (同期型)	12:00-13:00 若手交流会 — 学会を越えてつながろう	12:00-13:15 昼食休憩 (および各委員会活動)
13:15	(非同期型)	13:15-14:00 総会	総会 (書類の審査で行う)
14:00		14:00-17:00 公開シンポジウム SDGs 目標達成に向けた異文化間教育と国際理解教育の役割 — ユネスコとの連携を再構築する	
17:00		17:00-17:30 休憩	
17:30		17:30-19:00 情報交換会 (懇親会)	

2021年6月13日(日)

	異文化間教育学会	日本国際理解教育学会
9:30	ポスターセッション	9:30-12:00 自由研究発表
12:00	(非同期型) 12:15-13:15 質疑応答 (同期型)	9:30-12:00 自由研究発表
13:15	(非同期型)	12:00-13:15 昼食休憩
	13:15-16:15 特定課題研究 「異文化間教育実践における社会の共創—葛藤を抱えつつ—」	13:15-16:15 特定課題研究 「21世紀の社会変容と国際理解教育—自己と社会の変容をつなげる新たな学びとは?—」

大会参加者へのご案内

大会日程

大会会期：2021年6月12日（土）－6月13日（日）（プレイベントは6月11日（金））

会 場：オンライン開催

本 部：玉川大学

※異文化間教育学会プレセミナー： 2021年6月11日（金） 13:00～16:30

※日本国際理解教育学会プレイベント：2021年6月11日（金） 14:00～16:00

※情報交換会：2021年6月12日（土） 17:30～19:00

参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでもご参加頂けます。

参加申し込み

オンライン開催のため事前申し込みが必須です。発表者以外の方、聴講のみの方も必ず事前申し込みをお願いいたします。

異文化間教育学会については、会員・非会員とも以下の第42回大会ホームページ内「参加・発表の申し込み」ページよりお手続き下さい。<http://www.intercultural.jp/iesj2021/apply.html>

日本国際理解教育学会については、会員・非会員とも学会ホームページ内の「研究大会のお知らせ」にあるオンラインフォームからお手続き下さい。

(<https://forms.gle/na3PFpsAknwzCZ8U7>)

※今大会は、異文化間教育学会第42回大会と日本国際理解教育学会第30回研究大会との合同大会です。どちらかの学会に参加申し込みされた方は、他方の学会のプログラムにも参加することができます。

※お申し込みくださった方に、参加のためのオンライン会議室の URL を大会1週間前を目途に大会実行委員会より送付させていただきます。

大会参加費

今回の合同大会では、大会参加費は両学会共通です。

(1) 発表者

発表者は大会参加費（正会員 3,000 円／学生会員 2,000 円）が必要です。

なお、情報交換会は無料でご参加いただけます。

※お払い込みいただいた参加費などは、理由を問わず返却はいたしません。

予めご了承ください。

(2) 一般参加者（オンライン参加者／発表無し）

事前の参加申し込みに加え、以下の参加費が必要です。参加費は会員種別により異なります。
なお、情報交換会は無料でご参加いただけます。

IESJ・JAIE合同大会発表参加費（両学会共通）

参加・会員種別		異文化間教育学会	日本国際理解教育学会
発表者	正会員	3,000円	3,000円
	学生会員	2,000円	2,000円
	名誉会員／顧問	ご招待	ご招待
	情報交換会	無料	無料
一般参加 (発表なし)	正会員	1,000円	1,000円
	学生会員	500円	500円
	通信会員	1,000円	
	非会員（一般）	1,500円	1,500円
	非会員（学生）	1,000円	1,000円
	維持会員	一口1名様無料 1,500円	
	名誉会員／顧問	ご招待	ご招待
	情報交換会	無料	無料

抄録について

オンライン開催のため、印刷したものを配布いたしません。サーバーへの負荷軽減のため、あらかじめダウンロードの上、ご参加ください。なお、抄録を開くためにはパスワードが必要です。パスワードは参加申し込みの方にメールでご連絡いたします。

同期型セッション（Zoom 利用）の概要

ビデオ会議システム Zoom のリンク（URL）は、一覧にして事前にご連絡します。セキュリティ上、URL の転送は厳禁といたします。ご協力のほど、お願いいたします。

Zoom を使うプログラムは、以下の通りです。

1. 共通イベント・公開シンポジウムほか

【ACCU ワークショップ】

日本国際理解教育学会との共通イベントとして、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）ワークショップを行います。詳細は[こちら](#)をご確認ください。

日時：2021 年 6 月 12 日（土）10：00～12：00

方法：Zoom 会議システム

参加：大会参加申込者はどなたでもご参加頂けます（事前申し込み不要）

【公開シンポジウム（共同企画）】

「SDGs 目標達成に向けた異文化間教育と国際理解教育の役割—ユネスコとの連携を再構築する」

日時：2021 年 6 月 12 日（土）14：00～17：00

方法：Zoom ウェビナー

参加：大会参加申込者はどなたでもご参加頂けます（事前申し込み不要）

【情報交換会】

日時：2021 年 6 月 12 日（土）17:30-19:00

方法：Zoom 会議システム

目的：異文化間教育学会と日本国際理解教育学会の両学会会員間の交流と情報交換の場としてご活用下さい。第 1 部の全体会では、両学会および開催校など関係者のご挨拶があります。続く第 2 部の分科会では、5 つのテーマ領域に対応したブレイクアールームが設定されていますので、興味のあるルームに自由にお入り頂き、他の参加者との交流や議論をお楽しみ下さい。

参加：大会参加事前申込者（当日参加も可能）

2. 自由研究発表

【異文化間教育学会：[個人発表](#)・[共同発表](#)・[ケース/パネル発表](#)】

【日本国際理解教育学会：[自由研究発表](#)】

日時：2021 年 6 月 12 日（土）10：00～12：00

2021 年 6 月 13 日（日） 9：30～12：00

方法：Zoom 会議システム

※セッションごとに Zoom 会議室を開設します。プログラムを参考に、参加を希望するセッションにご参加ください。

Zoom のリンク（URL）の一覧は参加申込者に事前にご連絡します。

【ポスターセッション】

ポスター（PDF ファイル）の掲示を非同期型で行います。加えて以下の時間帯に同期型の発表（質疑応答）の時間を設けます。詳細は「[ポスターセッションへの参加方法](#)」をご覧ください。

① ポスター掲示：非同期型

日時：2021年6月12日（土）～6月13日（日）

方法：Google drive にて PDF ファイルを掲示（ダウンロード可）

URL は参加申込者に事前にご連絡します。

② ポスター発表（質疑応答）：同期型

日時：2021年6月12日（土）12：15～13：15

6月13日（日）12：15～13：15

方法：Zoom 会議システム

※ポスターセッションとして一つの Zoom 会議室を開設し、発表者ごとにブレイクアウトルームを設けます。参加する方は自由にブレイクアウトルームに入り、発表を聞いたり質問をしたりしてください。

※発表者の在席日は[プログラム](#)でご確認ください。

2. 特定課題研究

日時：2021年6月13日（日）13：15～16：15

方法：Zoom 会議システム

参加：大会参加事前申込者

※同時時間帯に、[異文化間教育学会](#)および[日本国際理解教育学会](#)の特定課題研究が同時並行で開催されます。

※[異文化間教育学会特定課題研究への参加は、先着 300 名とさせていただきます。](#)万が一、参加できなかった場合にはご了承ください。

なお、異文化間教育学会特定課題研究の配布資料は、Google Drive にて事前に共有いたします。URL は参加申込の方に Zoom リンク一覧と併せ、お送りします。

3. その他プログラム

【[異文化間教育学会プレセミナー](#)】

日時：2021年6月11日（金）13:00-16:30

参加：プレセミナー事前登録者のみ

【[日本国際理解教育学会プレイベント](#)】

日時：2021年6月11日（金）14:00-16:00

参加：事前申し込みは不要

【若手交流会】

「異文化間教育学会×日本国際理解教育学会 合同若手交流会—学会を越えてつながろう」

日時：2021年6月12日（日）12:00-13:00

方法：Zoom 会議システム

参加：若手交流会事前申し込み登録者のみ

以下のリンクから6月7日（月）12:00までに、参加登録をお願いいたします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4LPTLk0gjfWxIqz9lYAZ3onpz3t-5bm1mET1b-rB5GI7yw/viewform>

【異文化間教育学会 会員総会】

日時：2021年6月12日（土）13:15-14:00

参加：大会参加事前申込者（会員のみ）

連絡先

大会全般または発表申込に関するお問い合わせ

異文化間教育学会 e-mail：ibunkakan42@gmail.com

日本国際理解教育学会 e-mail：jaie2021.tamagawa@gmail.com

異文化間教育学会：参加申込み・お支払いに関する連絡先

異文化間教育学会大会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 （株）国際文献社内

e-mail：iesj-desk@bunken.co.jp FAX：03-5227-8632

異文化間教育学会：会員登録に関するお問合せ先

異文化間教育学会事務局 会員業務係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 （株）国際文献社内

e-mail：iesj-post@bunken.co.jp FAX：03-5227-8631

日本国際理解教育学会：参加申込み・お支払いに関する連絡先

IESJ・JAIE 合同大会実行委員会

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1 玉川大学教育学部 小林亮研究室内

e-mail：makoto@edu.tamagawa.ac.jp

日本国際理解教育学会：会員登録に関するお問合せ先

日本国際理解教育学会事務局

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町 1

立命館大学大学院教職研究科 森田真樹研究室内

e-mail：jaie@st.ritsumeai.ac.jp

IESJ・JAIE 共同企画 公開シンポジウム

日時：2021年6月12日（日） 14:00-17:00

方法：Zoom ウェビナー

SDGs 目標達成に向けた異文化間教育と国際理解教育の役割

－ ユネスコとの連携を再構築する －

企画趣旨：

気候変動や国際間の分断・対立の尖鋭化に加えコロナウイルスによるパンデミックにより持続不可能な現実直面している現在の世界は、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に代表されるように、あらゆる立場の人が協力して人類社会のパラダイム転換に対応していく必要に迫られています。20世紀末に設立された異文化間教育学会と日本国際理解教育学会は、どちらもグローバル化という人類社会が直面する新たな時代状況に即応した新たな教育課題を、それぞれの視点から追求してきました。このたび両学会が協力して合同大会を開催するにあたり、SDGs 目標達成という人類社会の優先課題に向けてユネスコ価値教育とも深いつながりのある異文化間教育および国際理解教育に何ができるかを講師にお迎えするユネスコスクール国際コーディネーターおよび国内外の専門家とともに学際的に検討し、今後の展望を探ってゆきたいと思えます。

<公開シンポジウム（共同企画）>

「SDGs 目標達成に向けた異文化間教育と国際理解教育の役割－ユネスコとの連携を再構築する」

第1部 基調講演：

斎藤珠里（ユネスコ本部 教育局 ユネスコスクール国際コーディネーター）

「さらなる発信力が求められるユネスコスクールの新たな役割」

第2部 パネル・ディスカッション

パネリスト：

佐藤郡衛（異文化間教育学会前理事長、明治大学）

森茂岳雄（日本国際理解教育学会会長、中央大学）

池田花笑子（大阪市立南小学校（昨年度まで））

コメンテーター：

藤原孝章（同志社女子大学）

渋谷 恵（明治学院大学）

司会・コーディネーター：

小林亮（玉川大学）

ACCU ワークショップ

日時：2021年6月12日（土）10時～12時

方法：zoom（YouTube 配信）

テーマ：国際交流で変容する学びを

趣旨：

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、ユネスコ（UNESCO）の理念に沿って、多様な文化が尊重される平和な社会の実現を使命として1971年に設立され、教育と文化の分野においてアジア・太平洋地域の連携・交流および持続可能な社会の実現を推進する団体としてさまざまな事業を展開してきました。子どもたち・学校・地域への波及効果が高い、教職員を対象にした国際交流事業には2001年より携わり、現在、韓国、中国、タイ、インドの4ヶ国と連携し「先生が変わる 子どもが変わる 未来が変わる 学びの場」づくりを担っています。折しも、交流事業がはじまって20年目となった昨年、あらためて国際交流事業の価値を見出し、その成果をさらに見つめ直すため、直近3年間に焦点を絞り報告書をまとめました。ACCUセッションでは、本報告書によって明らかになった事業の成果や課題をご紹介するとともに、重要なキーワードとして取り上げている「国際交流による変容」をテーマに、実際にプログラムにご参加くださった3名の教職員の体験談を交えながら、改めて「なぜ国際交流が必要なのか。」を見つめます。

スケジュール：

時間	所要時間	活動
10:00	0:15	イントロダクション ・ ACCU の活動、教職員国際交流事業の紹介
10:15	0:15	プログラム参加教職員からの報告① 森 裕紀子様 千葉県立桜ヶ丘特別支援学校（教諭）
10:30	0:15	プログラム参加教職員からの報告② 坂下 充輝様 札幌市立北野平小学校（学校事務職員）
10:45	0:15	プログラム参加教職員からの報告③ 望月 浩明様 神奈川県ユネスコスクール連絡協議会（事務局長）
11:00	0:15	休憩
11:15	0:15	ACCU からの報告 ・ 成果可視化委員会の成果・「教職員国際交流の価値とインパクト成果分析報告書・実施報告書」から
11:30	0:25	質疑応答、パネルディスカッション (ご視聴の皆さまとのコミュニケーションツールとして、チャットボックスを使います。)
11:55	0:05	まとめ
12:00		閉会

情報交換会

日時：2021年6月12日（日） 17:30-19:00

方法：Zoom 会議システム

せっかく異文化間教育学会と日本国際理解教育学会の合同大会が実現いたしましたので、両学会の会員が交流し、自由に意見交換ができる場を「情報交換会」としてオンラインで設けたいと思います。大会参加者のすべての人がこの情報交換会に招待されています。お時間の都合のつく方は、どうぞふるってご参加下さい。

両学会会長（理事長）の挨拶、開催校玉川大学の挨拶から始まる全体会の後、両学会に共通する領域に対応したテーマ別の「ブレイクアウトルーム」を設置いたしますので、興味のあるテーマの部屋に自由にお入り頂き、他の参加者との交流や議論をお楽しみ下さい。

<情報交換会 第1部（全体会）> 17:30～18:00

ご挨拶 渋谷真樹（異文化間教育学会理事長）

ご挨拶 森茂岳雄（日本国際理解教育学会会長）

ご挨拶 小原一仁（玉川大学教育学部長）

ご挨拶 朴淳庸 Pak Soon-Yong（韓国国際理解教育学会 KOSEIU 会長）

大会実行委員会のご紹介

<情報交換会 第2部（分科会）> 18:00～19:00

テーマ例：1 言語教育

2 エスニシティと多文化共生

3 SDGs と ESD

4 留学と文化間移動

5 国際理解のための異文化間スキル

※ その他のテーマも設ける予定です。

異文化間教育学会第 42 回大会

プレセミナー

日時：2021年6月11日（金）13：00～16：30

方法：Zoom 会議システム

アート鑑賞による対話のデザイン —ダイバーシティを受け止める—

■ 企画趣旨

近年、異文化間教育学会では「ダイバーシティ」を一つの軸に、ヒューマンライブラリー、演劇的なワークショップ、「特権」について考えるワークショップ、LGBTをテーマにしたワークショップ等、多様なワークショップの機会を設けてきました。

第42回大会プレセミナーでは、初めてアート（美術作品）を介した対話の場を設けることにしました。まず、作品を見ながら他者と対話する世界にどっぷりとつかっていただきます。その対話を通して開かれていくものの見方やとらえ方、対話の持つ力などについて、参加者と対話を重ねていく場にしたいと考えています。対話、すなわち異なる視点からの多様な声を聞くことの意味、寛容な社会・創造的な社会とはどのような社会なのか、その社会の実現にアートや対話がどのように介在するのか、教育実践者としてできること・すべきことは何かなど、ともに考えを深めてみませんか。

■ 講師

三澤 一実氏（武蔵野美術大学教授）

（略歴）東京芸術大学大学院修了。中学校美術科教諭、埼玉県立近代美術館主査、文教大学准教授を経て、2008年より武蔵野美術大学教職課程教授。

「美術のよさは実践でしか伝わらない」と考え、見ること、つくり出すことの楽しい体験を教育現場に入れる活動を日々展開中。また、「美術は社会にとって毒でもある。でもそのちょっと痺れるくらいの毒がないと学校も社会も新鮮さを失ってしまう」とも。

武蔵野美術大学着任と同時に、学校教育現場で生徒たちと対話を深めながら美術作品を鑑賞する「旅するムサビ」を主宰。2020年4月現在、27都道府県、海外3か所で延べ300件を超える取り組みを実施。「旅するムサビ」は2017年に「グッドデザイン賞」を受賞。その他、社会的活動実績多数。主な著書に『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局2020）ほか。

コーディネーター：室中 直美氏（国際文化フォーラム）・大船 ちさと氏（国際交流基金）

■ 参加方法

Zoom 会議システムを用いて行います。事前に参加登録の上、参加費をお支払いの方に、参加に必要な Zoom のリンクをお送りします。なお、すでに満席となっております。

特定課題研究

日時：2021年6月13日（日）13：15～16：15

方法：Zoom 会議システム

異文化間教育実践における社会の共創—葛藤を抱えつつ—

■ 企画趣旨

昨年の特定期間研究では越境する若者たちが「日本」という空間や「日本人」という集団をいかに経験し、意味づけているのかに迫り、「日本」を再想像していこうと試みました。そもそも異文化間教育学は既存の社会を問い直し、一人一人が暮らしやすい社会を創造していくために様々なテーマで研究がなされてきました。

そこで今回の特定期間研究では「ポジショナリティ」をキーワードにして異文化間教育が社会変革に貢献できる方策を提示していきたいと思えます。社会を変えようと叫んだとき、どの立場から発せられた声かによってそれが持つ意味は異なってくると思えます。ポジショナリティに自覚的になることで個人がどのように変わるのか、また社会を変えていけるのかについて構想していきます。

■ 話題提供者

安場淳（中国帰国者支援・交流センター）

より「公正」な共創をどのように目指せるか

—中国帰国者の家族史が語り継がれない背景を巡って—

小林聡子（千葉大学）

「タダシイコト」へのアプローチをめぐる葛藤—「教養」を超える教育実践へ—

齋藤真宏（旭川大学）

社会共創のための教師教育実践—セルフスタディから何を得たのか—

■ 指定討論者

芝野淳一（中京大学）

■ 参加方法

Zoom 会議システムで開催します。先着 300 名とさせていただきますので、ご了承ください。

Zoom 情報は、他のセッションの情報と併せ、大会参加申し込み者にメールでご連絡します。

■ 企画：研究委員会

渋谷真樹（日本赤十字看護大学）

出羽孝行（龍谷大学）

徳永智子（筑波大学）

芝野淳一（中京大学）

平井達也（立命館アジア太平洋大学）

(特定課題研究 発表資料 8 ページ)

※ パスワード付の抄録資料ではご覧いただけます。

異文化間教育学会×日本国際理解教育学会 合同若手交流会

日時：2021年6月12日（金）12：00～13：00

方法：Zoom 会議システム

「学会を越えてつながろう」

■ 企画趣旨

異文化間教育学会第42回大会では、若手交流委員会の企画として「異文化間教育学会×日本国際理解教育学会 合同若手交流会——学会を越えてつながろう」を開催します。

今回は日本国際理解教育学会との合同大会の機会を活かし、双方の学会員からそれぞれの視点で学会紹介をしていただいた後、ブレイクアウトセッションを用いて若手研究者の相互交流の場を設けます。参加者の皆さんにとって、研究や実践上のネットワークづくりとともに、新しい視点の獲得、共通関心の発見や共同研究の糸口などが得られる機会になればと考えています。自称「若手」の方なら、どなたでもご参加いただけます。奮ってご参加ください。

■ プログラム

12:00-12:05	チェックイン・開会の挨拶・流れの説明
12:05-12:10	異文化間教育学会の紹介
12:10-12:15	日本国際理解教育学会の紹介
12:15-12:20	ブレイクアウトセッションの説明・振り分け
12:20-12:50	ブレイクアウトセッションによる交流：学会を越えてつながろう
12:50-12:55	全体での共有
12:55-13:00	閉会挨拶・アンケート記入

■ 参加方法

事前に参加登録いただいた方に、「2021年度 オンライン若手交流会」参加のための招待メール（システムにログインするためのWebリンク）をお送りする予定です。事前の参加登録は6月7日（月）正午までに大会ウェブサイトよりお願いいたします。なお、定員は80名です。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4LPTLk0gjfWxlqrz9IYAZ3onpz3t-5bm1mET1b-rB5GI7yw/viewform>

■ 企画・運営：異文化間教育学会若手交流委員会（五十音順）

青木香代子（茨城大学）

金南咲季（椛山女学園大学）

渋谷恵（明治学院大学）

新見有紀子（東北大学）

発表について

研究発表には、以下の種別があります。発表者、題目などの詳細は、それぞれの部会のページをご覧ください。

[個人発表](#) [共同発表](#) [ケース／パネル発表](#) [ポスターセッション](#)

■参加要領

個人発表、共同発表、ケース／パネル発表、ポスターセッションは、Zoom を用いた同期型で行います。ポスター発表のみ、非同期型でポスターの掲示を行います。また、抄録はホームページ上に掲載します。抄録を開くためにはパスワードが必要です。Zoom の ID および抄録のパスワードは事前に大会参加申し込みをされたみなさまにメールでご案内させていただきます。

【個人発表・共同発表・ケース/パネル発表】

日時：2021年6月12日（土）10：00～12：00

2021年6月13日（日） 9：30～12：00

方法：Zoom 会議システム

※セッションごとに Zoom 会議室を開設します。

※抄録を参考に、参加を希望するセッションにご参加ください。

【ポスターセッション】

ポスター（PDF ファイル）の掲示を非同期型で行います。加えて以下の時間帯に同期型の発表（質疑 応答）の時間を設けます。[詳細は次ページでご確認ください。](#)

①ポスター掲示：非同期型

日時：2021年6月11日（金）～6月13日（日）23：59

方法：Google drive にて PDF ファイルを掲示（ダウンロード可）

※URL は参加申込者に事前にご連絡します。

※Google アカウントが必要となります。

Google アカウントをお持ちでない方は事前取得をお願いいたします。

②ポスター発表（質疑応答）：同期型

日時：2021年6月12日（土）12：15～13：15

2021年6月13日（日）12：15～13：15

※発表者の在席日は抄録でご確認ください。

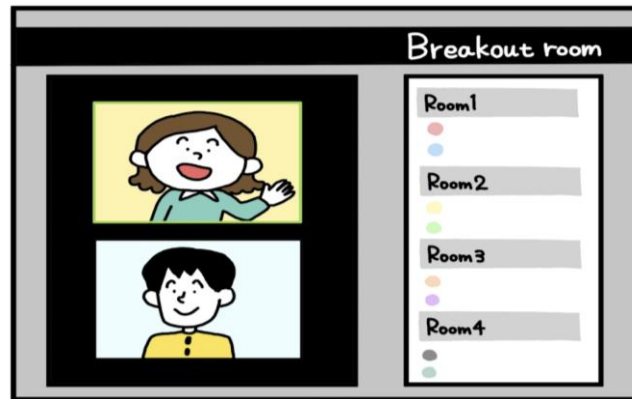
方法：Zoom 会議システム

※ポスター発表として一つの Zoom 会議室を開設し、発表者ごとにブレイクアウトルームを設けます。参加する方は自由にブレイクアウトルームに入り、発表を聞いたり質問をしたりしてください。

※異文化間教育学会事務局オンライン大会窓口：iesj.taikai@gmail.com

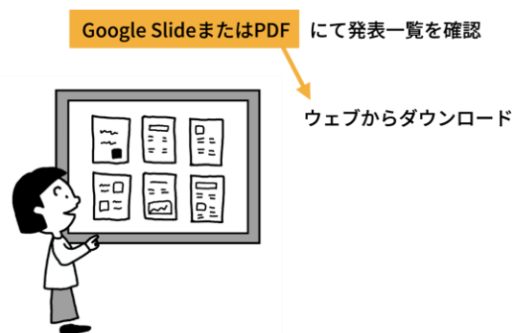
ポスターセッションへの参加方法

リアルタイムオンラインで実施します。



★★★ポスターセッションへの参加方法についての説明★★★

(1) ポスターの掲示をご覧ください

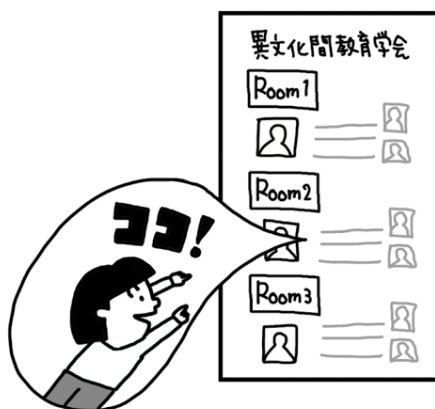


ポスターは、Google Drive にて「一覧表」と「PDF」で公開します。

Google Drive へのアクセス情報は、大会参加申込者にその他の発表の Zoom ID の連絡と合わせ、メールで送付します。

(2) ポスターセッション会場 Zoom にご来場ください。

聞きたい発表の **ブレイクアウトセッション** にご参加ください。

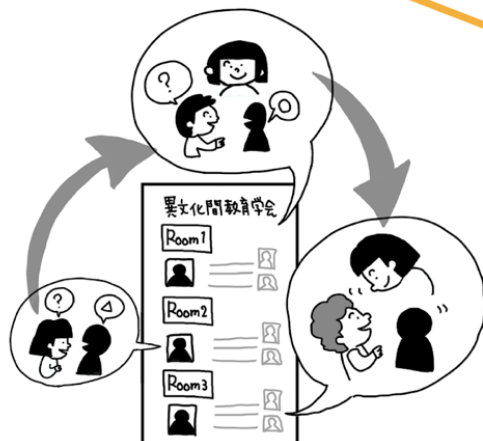


ポスターセッション会場Zoomに入場されましたら、ブレイクアウトマークをクリックし、聞きたい発表のセッションにご参加ください。
(Zoomを最新版にアップデートする必要があります)

自分でセッションに参加できない場合
会場スタッフに、希望のセッションにとばしてもらってください。

(3) ポスターセッション発表者との議論は【12:15-13:15 (1時間)】です。

途中入室&途中退出可能 自由にポスターセッションを移動してください。



ポスターセッションでは、
ポスターについて自由に発表者と
議論をしてください。

途中入室、途中参加が可能です。
他の人の質問を聞いて、議論に参加したり、
コメントなどをチャットに残すなどして
発表者と交流してください。

(4) ポスターセッションの発表形式

各セッションでは様々な形態で発表が行われます。

- ・ポスターとは別のスライドを使った発表
 - ・口頭のみで参加者と議論
- ・Jamboardを活用したインタラクティブな発表
 - ・ポスターを拡大したりしながら発表
 - ・印刷したポスターの前で発表



異文化間教育学会「優秀発表賞」について

異文化間教育学会では、異文化間教育学の発展を期して、会員の研究発表を奨励し、研究発表の向上を図ることを目的として、「優秀発表賞」を設けています。この賞は、若手の研究者を対象とし、当該大会における「個人研究の個人発表」の中から、優秀と評価された発表に与えられるものです。

大会 HP 等でも示しているとおおり、優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が受賞資格の条件（注）のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要があります。

審査方法についてはエントリーされた発表ごとに 2 名の評価者（研究委員会により委嘱）が会場で評価します。選考方法については、学会 HP に掲載してある選考手続きおよび規定に基づき、別途、優秀発表賞審査委員会を設置します。その後、本賞は審査委員会による選考が行われ、理事会の承認を得て決定されます。

「優秀発表賞」の実施にあたり、どうぞ大会参加会員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、優秀発表賞の選考方法（選考の手続き、審査対象・審査基準）については、学会 HP をご覧ください。

（注）発表者が応募時に以下のいずれかに該当する場合、受賞資格を有するものとする。

- ・ 大学院修士課程もしくは大学院博士課程に在学中である
- ・ 修士課程修了後 10 年以内である
（複数の修士課程を修了した場合は、最後に修了した修士課程が対象）
- ・ 最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後 12 年以内である
- ・ 修了後の期間は、修了・卒業月の末日を修了日として起算する

例えば、大学院修士課程修了者で、3 月修了の場合は、3 月 31 日を修了日として、10 年後の 3 月 31 日までが受賞資格を有する期間とする。

異文化間教育学会
理事長 佐藤郡衛

異文化間教育学会第 42 回大会 発表プログラム

個人発表プログラム

異文化間教育学会第 42 回大会

個人発表プログラム 大会 1 日目 2021 年 6 月 12 日 (土)

個人発表 セッション A 「共修」 10:00~11:30 座長: 岸磨貴子 (明治大学)

1. オンラインでの多文化共修授業の振り返り

岡智之 (東京学芸大学)

2. 国際共修場面における学生間の葛藤の要因—受講生の意識の差に着目して—

藤美帆 (広島修道大学)

3. 多文化共生を拓く異文化理解教育の実践—パフォーマンス心理学から捉える多様性がつながる場のデザイン—

岸磨貴子 (明治大学)

個人発表 セッション B 「エスニシティ①」 10:00~12:00 座長: 島田徳子 (武蔵野大学)

1. 米国大学におけるホワイトネス及び英語ヘゲモニー研究—解釈的現象学を通して—

矢島祐作 (ルイジアナ大学)

2. アジア系性的マイノリティ教員の実務経験—カナダにおける生態学的事例研究—

中林勇人 (独立研究者)

3. 在日ネパール人 1.5 世の学校生活と大学進学—ネパールでの教育経験や社会背景の影響に着目して—

大國七歩 (東京大学大学院生)

4. 潜在連合テストによる外食企業の日本人マネジャーの外国人に対する潜在的偏見に関する探索的検討—質問紙調査による顕在指標との関係に着目して—

島田徳子 (武蔵野大学)

個人発表 セッションC 「国際交流」 10:00~12:00 座長:徳井厚子(信州大学)

1. 大学生による外国人技能実習生パートナー制度の試み—ニーズと地域文化発見としての異文化交流—

塩入すみ(熊本学園大学)

2. 地方における国際交流活動を通しての、小学生の異文化・自文化への気づき—World Day in Kakinoki の取組から—

大谷みどり(島根大学)

3. コロナ禍における外国人相談員のコミュニケーション支援

徳井厚子(信州大学)

4. 複言語環境の学級におけるアニメーションを用いた国際理解教育—日本人児童の言語意識変容をめざした授業実践—

矢崎満夫(愛知教育大学)

個人発表 セッションD「日本語教育①」 10:00~12:00 座長:谷口ジョイ(静岡理工科大学)

1. 海外日系コミュニティにおける保護者主体の継承日本語教育—人的流動性との関係から—
谷口ジョイ(静岡理工科大学)

2. 「わたしたちのことば」に創発する居場所—留学生の逸脱的日本語によるあそびの分析から—
井濃内歩(筑波大学大学院生)

3. 日本語学校経営者になったある女性の学校創設要因の語り—「女性だからできた」に注目して—

岡田茉弓(大阪大学大学院生)

4. 中国の大学日本語専攻における異文化コミュニケーション教科書分析について—日中相互理解を目指した国際理解教育の教材開発に向けて—

周勝男(兵庫教育大学大学院生)

個人発表 セッションE 「日本語教育②」 10:00~11:30 座長: 齊藤美穂 (神戸大学)

1. 中学校の日本語指導教員のアイデンティティ

竹内陽介 (立命館大学)

2. オンラインによる短期日本語及び地域研究プログラムの実践と課題

齊藤美穂 (神戸大学)

3. 日本語教師養成講座の講師からの影響による教育実習生の意識変容

俵加奈子 (お茶の水女子大学大学院生)

個人発表 セッションF 「キャリア教育」 10:00~11:30 座長: 浅井亜紀子 (桜美林大学)

1. 海外インターンシップが大学生のキャリア発達に与える影響—P A C分析による研究—

上西智子 (立教大学)

2. JETプログラムのインパクト—元ALTのキャリアにおける日本体験の意味—

浅井亜紀子 (桜美林大学)

3. 難民申請中トルコ国籍クルド人生徒の進路形成—一定時制高校での学びの意義づけに着目して—

上原菜緒子 (東京大学大学院生)

個人発表プログラム 大会2日目 2021年6月13日(日)

個人発表 セッションG 「留学生」 9:30~12:00 座長:新見有紀子(東北大学)

1. 高校卒業以降の半年以上の留学を規定する高校時代の異文化接触経験とは—アンケート結果を踏まえた探索的分析—

新見有紀子(東北大学)

2. 日本留学経験が現在の職務に与える影響—大学院を修了し日本で就職した中国人元留学生の場合—

黄美蘭(東京都立大学)

3. 専門教育の授業における中国人留学生の日本人教員及び日本人学生との相互作用—中国人留学生の満足度調査から見たもの—

閻琬新(東北大学大学院生)

4. 「内観振り返り作文」を通じた留学生の行動変容—質的帰納的分析から解明される留学生の葛藤と関わり合いの必要性—

高久孝幸(帝京平成大学)

5. 留学効果としてのスキル変容—ボストン留学を通して学生はどう変化したのか—

地引優香(昭和女子大学)

個人発表 セッションH「英語教育・言語教育」 9:30~12:00 座長:大味潤(東京経済大学)

1. 継承語教育における社会情緒的能力向上にむけた試み—継承ポルトガル語教師養成コースの事例から—

栞野寿美子(神田外語大学)

2. 地球市民教育としての英語教育へ—社会企業家へのレターライティングを通して—

佐々木雅子(秋田大学)

3. 異文化教育と第2言語としての英語教育—学習者とのインタビューから見る英語教育の問題点—

大味潤(東京経済大学)

4. 言語教師はことばと文化への気づきを導けるのか—意味理解の深化のための実践例—

萩原秀樹(インターカルト日本語学校)

5. 混合型短期海外研修プログラムの評価

黄貞淵(東洋大学)

個人発表 セッションI 「複言語」 9:30~11:30 座長:花井理香(大阪大学)

1. 日本語母語話者とアラビア語母語話者における謝罪行動—謝罪発話行為の相違点と両言語教育への応用—

ターリク・フセイン・ハカミー(東海大学大学院生)

2. 在韓日本人母コミュニティの経時的言語使用調査—コミュニティ活動と言語使用の変化について—
花井理香(大阪大学)

3. 消滅危機言語の再活性化のための教育実践を考える—沖縄県宮古島市におけるニュー・スピーカーの言語意識を育てる実践報告—

藤田ラウンド幸世(国際基督教大学)

4. 多言語環境で育つ子どもに対する担任保育者の考え—5歳児担任へのインタビュー調査を中心に—
王笑桜(関西学院大学大学院生)

個人発表 セッションJ 「オンライン学習」 9:30~11:30 座長:田中共子(岡山大学)

1. AUC-GS 学習モデルのエクササイズ・オンライン版への学習者の反応—KH Coder による学びの活用と興味の実分析—

田中共子(岡山大学)

2. 異文化理解のための遠隔ビデオ会議ディスカッションについての—考察—日本人学生の異文化理解と「深い」学びに注目して—

深川美帆(金沢大学)

3. コロナ禍におけるオンライン・スタディツアーの試み—ラオスを支援する学生団体の実践例—
乾美紀(兵庫県立大学)

4. オンライン短期海外研修の効果とその意義

瀬尾匡輝(茨城大学)

個人発表 セッション K 「エスニシティ②」 9:30~12:00 座長:鈴木一代(埼玉純真短期大学)

1. ペルーにルーツを持つ日系アメリカ人の教育と適応—第二次世界大戦前後に移住した人々の文献調査及び聞き取り調査より—

松田デレク(お茶の水女子大学)

2. 移民家族の大学進学を困難にする要因—在日ブラジル人家族に着目して—

大川ヘナン(大阪大学大学院生)

3. オランダの教育格差是正に向けた就学前教育政策にみる移民の子どもの包摂と排除

福田紗耶香(九州大学大学院生)

4. 現地語を母語とする二世が家庭で育む「ことば」に関する考察

金志唯/神谷志織(広島大学大学院生)

5. 日系国際児の文化的アイデンティティの発達についての一考察—事例の探索的検討を中心に—

鈴木一代(埼玉純真短期大学)

個人発表 セッション L 「多文化教育」 9:30~12:00 座長:川崎誠司(東京学芸大学)

1. ブラジル人学校と地域の関係—混合研究方法を用いた現状分析—

金南咲季(椋山女学園大学)

2. 教室の多国籍化の現状と課題—群馬県南東部を事例として—

竹内愛(共愛学園前橋国際大学)

3. 定住外国人の語りから捉える主観的格差感の構成要素—関係流動性格差と承認/包摂格差—

横溝環(茨城大学)

4. ドイツの異文化間教育における差異を巡る議論—インターセクショナルリティに着目して—

伊藤亜希子(福岡大学)

5. 多文化教育の中心課題「公正らしさの学習指導」をどう進めるか—理想理論と「コンプリヘンシブ」概念を手がかりに—

川崎誠司(東京学芸大学)

共同発表プログラム

異文化間教育学会第 42 回大会

共同発表プログラム 大会 1 日目 2021 年 6 月 12 日 (土)

共同発表 セッション A 「異文化スキル育成」 10:00~12:00

1. 大学におけるグローバルリーダー教育の試み—新入生の特性を踏まえたカリキュラム開発に向けた実践—

渡部由紀 (東北大学)・新見有紀子 (東北大学)・林聖太 (東北大学)

2. なぜ保育者を目指す学生に異文化への「応答性」を求めるのか—セルフスタディを通じた探究—
内田千春 (東洋大学)・齋藤眞宏 (旭川大学)

共同発表プログラム 大会 2 日目 2021 年 6 月 13 日 (日)

共同発表 セッション B 「異文化理解」 10:00~12:00

1. 多文化ファシリテーション能力に関する基礎的研究—近接分野の文献レビューを通して—
秋庭裕子 (一橋大学)・平井達也 (立命館アジア太平洋大学)・米澤由香子 (東北大学)

2. 海外短期研修における異文化適応力の発達の差異とその要因に関する研究—5 週間マレーシア研修および IDI の事例より—

小早川裕子 (東洋大学)・柏崎梢 (東洋大学)

共同発表 セッション C 「外国人児童生徒・海外帰国児童生徒」 10:00~12:00

1. 外国につながるのある児童への教師のかかわりの違いを探る—神奈川県 A 市の小学校教員に対する質問紙調査から—

三浦綾希子 (中京大学)・清水睦美 (日本女子大学)・根岸佐織 (日本女子大学)・
柿本隆夫 (大和市教育委員会)・篠原弘美 (大和市教育委員会)

2. 「日本語が苦手な子」から「主体的な学習者」へ—補習授業校支援事業を通して—
岡村郁子 (東京都立大学)・近田由紀子 (目白大学)・佐藤郡衛 (明治大学)・

渋谷真樹 (日本赤十字看護大学)

ケース／パネル プログラム

異文化間教育学会第 42 回大会 大会 2 日目 2021 年 6 月 13 日（日）

ケース／パネル 10：00～11：30

オンライン異文化間教育—コロナ下における実践者の自己省察—

工藤和宏（獨協大学）・矢島祐作（ルイジアナ大学）・中林勇人（独立研究者）

ポスターセッション プログラム

異文化間教育学会第 42 回大会 ポスターセッション

ポスター掲示期間：2021 年 6 月 11 日（金）～6 月 13 日（日）

ポスター発表（質疑応答）：大会 1 日目 2021 年 6 月 12 日（土）

ポスター同期型在席時間 12：15～13：15

1. ヒューマンライブラリーにおけるオンライン対話の可能性と限界について

—東京ヒューマンライブラリー協会の実践から—

坪井健（東京ヒューマンライブラリー協会）

2. 国境と時差を越えた留学生交流の試みから修了生ネットワーク構築への展望

小松由美（東京外国語大学）

3. COIL の実践報告—双方が対等な立場で学修を可能にするための方策—

山下美樹（麗澤大学）

4. オンラインにおける国際ボランティア

宇治谷映子（名古屋外国語大学）

5. 異文化間教育の観点からみた大学生と留学生の食育

津田晶子（中村学園大学）

6. これからの留学生教育交流の課題と展望—新型コロナウイルス感染症拡大の経験を通して考

える—

有川友子（大阪大学）

7. 日本人大学生の周りにある「授業外英語学習機会」の—考察—種類・長所短所に着目して—

會田篤敬（山梨大学）

ポスター同期型在席時間 12:15~13:15

1. 帰国児童・生徒受入れ体制の変容—高等学校段階での特徴—

稲田素子(立教大学)

2. 外国ルーツの子どもへの支援をテーマにした教員研修の成果と課題

田口香奈恵(東海大学)・山森理恵(東海大学)

3. 移民背景の学習者に対応する言語教師に求められる異文化能力要素—ヨーロッパの言語教師養成からの一考察—

松岡洋子(岩手大学)・足立祐子(新潟大学)

4. 外国につながる乳幼児の保育支援—子どもの各発達段階における保育者の相談内容から—

塘利枝子(同志社女子大学)

5. 海外在住日本語教師の文化観の拡張をめざした教授法授業の試み

大船ちさと(独立行政法人 国際交流基金)

6. オンラインを活用した外国人児童生徒等教育担当者研修の内容構成—教師の経験の多様性に着目して—

浜田麻里(京都教育大学)・齋藤ひろみ(東京学芸大学)

7. 外国人社員と日本人社員のコミュニケーションギャップ

阿部祐子(国際教養大学)

**日本国際理解教育学会
第 30 回研究大会**

プレイベント

日時：2021年6月11日（金）14：00～16：00

方法：Zoom ミーティング

「異己」プロジェクト 日中韓オンライン交流会

2013年、本学会の国際委員会の事業として始まった「異己」プロジェクトは、2017年度科研費基盤研究(B)に採択された。その後、日中韓三カ国での実践研究は加速し、2021年3月、その実践研究の成果を研究報告書にまとめ、公表した。

今回のプレイベントでは、これまでの「異己」プロジェクトのあゆみを振り返り、「異己」プロジェクトの成果と課題を総括し、今後の「異己」プロジェクトの方向性を展望することを目的とする。プレイベントの主な概要は次のとおりである。

最初に、プレイベントの趣旨説明を行う。次に、「異己」プロジェクトのあゆみを確認する。続いて、日本、韓国、中国の順に、最近の実践研究の報告を行う。その後、指定討論者からのコメントをふまえ、協議を深める予定である。最後に、プレイベントの総括として、今後の「異己」プロジェクトの展望を行う。

(釜田聡)

■ プログラム

司会

原瑞穂（上越教育大学）

「異己」プロジェクトのあゆみ

釜田聡（上越教育大学）

話題提供 1 日本の実践

岩船尚貴（上越教育大学附属中学校）

話題提供 2 韓国の実践

金仙美（韓国：中央大学校）

話題提供 3 中国の実践

姜英敏（中国：北京師範大学）

コメンテーター

藤原孝章（同志社女子大学）

総括：「異己」プロジェクトへの期待

森茂岳雄（中央大学）

特定課題研究

日時：2021年6月13日（日）13：15～16：15

方法：Zoom ミーティング

21世紀の社会変容と国際理解教育

～自己と社会の変容をつなげる新たな学びとは？～

研究・実践委員会

この1年間、研究・実践委員会では37回にわたる研究会に延べ656人が参加し、以下の4つのプロジェクトで議論を重ねてきました。本特定課題研究ではこれまでの軌跡を全体会で共有した後、分科会ごとにアクチュアルな報告と議論を行い、さらに全体会で「社会変容 ⇄ 自己変容」というテーマに挑みます。

1. 政策研究プロジェクト—ユネスコ「1974年勧告」とSDGs(ESD,GCED)—

この分科会では、ユネスコスクールや外国学校、韓国の世界市民教育の動向等を共有し、「1974年勧告」や「誰も取り残さない」を標榜するSDGsと照らし合わせ、政策課題を明らかにします。【司会：嶺井明子（元・筑波大学）永田佳之（聖心女子大学）、報告者：上別府隆男（福山市立大学）朴桓甫（忠南大学（韓国））小貫大輔（東海大学）】

2. 学び論プロジェクト—創発の関係性をうみ出す学びの場づくり—

本プロジェクトでは、学習者との関わりをふり返る2つの事例から、創発をもたらす学びの場にはどのような特徴があるのかを捉えます。【司会：成田喜一郎（自由学園最高学部）、話題提供者：曾我幸代（名古屋市立大学）津山直樹（中央大学大学院）高野慎太郎（自由学園女子部）菊地恵美子（仙台育英学園高等学校・早稲田大学大学院）】

3. 地域論プロジェクト—持続可能な開発と地域の生活・文化・学び—

この分科会では本プロジェクトの3チーム（益子・隅田川・民話）の到達点について報告し、参加者とともに今後の研究・実践のあり方について自由に意見を交換します。【司会：山西優二（早稲田大学）孫美幸（文教大学）、報告者：南雲勇多（東日本国際大学）林加奈子（桜美林大学）宮野祥子（桜美林大学）飯塚宜子（京都大学）園田浩司（京都大学）】

4. なってみる、感じてみる—社会変容と身体性プロジェクト

国際理解教育において社会と自己が「共に変わる」、そのとき身体性はどのような役割を担い得るのか。分科会では実際に身体感覚を味わいつつ、検討します。【司会：和田俊彦（跡見学園中学高等学校）横田和子（広島修道大学）、話題提供者：関根真理（啓明学園中学高等学校）守内映子（日本映画大学）和田俊彦（跡見学園中学高等学校）】

(特定課題研究 発表資料 2 ページ)

※ パスワード付の抄録資料ではご覧いただけます。

発表について

■参加要領

日本国際理解教育学会第30回研究大会の自由研究発表は、Zoomを用いた同期型で行います。また、各自由研究発表の抄録原稿については日本国際理解教育学会の学会ホームページ上 (<https://www.kokusairikai.com/>) に掲載します。抄録を開くためにはパスワードが必要です。

ZoomのIDおよび抄録のパスワードは事前に大会参加申し込みをされたみなさまにメールでご案内させていただきます。

【日本国際理解教育学会第30回研究大会 自由研究発表】

日時：2021年6月12日（土）10：00～12：00

2021年6月13日（日）9：30～12：00

方法：Zoom会議システム

※セッションごとにZoom会議室を開設します。

※抄録を参考に、参加を希望するセッションにご参加ください。

※日本国際理解教育学会第30回研究大会窓口：jaie2021.tamagawa@gmail.com

日本国際理解教育学会
第 30 回研究大会
発表プログラム

自由研究発表 プログラム

日本国際理解教育学会第30回研究大会 大会1日目 2021年6月12日(土)

自由研究発表 セッションA 「SDGs」 10:00~11:30 座長:宇土泰寛(椋山女学園大学)

1. 水・気候変動問題の学び合いから地域と世界をつなぐ大陸間SDGs教育

宇土泰寛(椋山女学園大学)

2. ことばの教育をデザインするーSDGsのジェンダーの視点から

横田和子(広島修道大学)・岩坂泰子(広島大学)・岡本能里子(東京国際大学)

3. SDGsの意識を涵養する社会科地理分野のカリキュラム開発~プログラミング的思考法を活用したグループワークを通して~

砂川真璃(立命館宇治中学校・高等学校)・木村慶太(立命館宇治中学校・高等学校)・今田晃一(大阪樟蔭女子大学)

自由研究発表 セッションB 「サステナビリティ(持続可能性)」 10:00~12:00

座長:松倉紗野香(埼玉県立伊奈学園中学校)

1. 持続可能な開発に向けた教育ファシリテーションに対する教師の問題意識

近藤牧子(早稲田大学)・松倉紗野香(埼玉県立伊奈学園中学校)・山中信幸(川崎医療福祉大学)

2. 持続可能な社会の再考ーホリスティックな観点から

木戸啓絵(岐阜聖徳学園大学短期大学部)

3. 社会起業家精神を通じた環境の持続可能性

スモン・ピソン(聖心女子大学)

4. 中学校地理的分野における「持続可能な社会」の構築に関する一考察

本多千明(武庫川女子大学)

自由研究発表 セッションC 「ICT教育」 10:00~12:00 座長：山田亜紀（玉川大学）

1. GIGA スクール構想における探究的な学習課題に関する一考察 ～「Society5.0 for SDGs」を手掛かりにして～

今田晃一（大阪樟蔭女子大学）・手嶋将博（文教大学）・木村慶太（立命館宇治中学校）

2. ICT を利用した国際協働学習 - iEARN"Girl Rising Project"

関根真理（啓明学園中学校高等学校）

3. オンライン国際理解ワークショップによる教職課程学生の民主的文化能力への効果

安達理恵（椋山女学園大学）

4. プログラミング教育を活用した小学校における国際協働学習 - Teddy Bear Project (TBP) を通して -

清水和久（金沢星稜大学）

自由研究発表 セッションD 「多文化共生」 10:00~12:00

座長：ベティーナ・ギルデンハルト（同志社大学）

1. 学びとしての「多文化共生」

ベティーナ・ギルデンハルト（同志社大学）

2. 多文化共生教育を問い直す - マジョリティの変容をめざす実践に着目して

山根俊彦（横浜国立大学）

3. 日本型多文化教育の構想と授業事例の分析

中澤純一（浜松学院中学校・高等学校）

4. 「多文化共生」を考察する授業の試み

木村真冬（お茶の水女子大学附属中学校）

自由研究発表 セッションE 「韓国の国際理解教育」 10:00~12:00

座長：中山京子（帝京大学）

1. Korean LGBT Preservice Teachers' Perceptions of Citizen and Gender Equality in the High School Social Studies Textbooks

Daehoon JHO (Sungshin Women's University)

2. 北アイルランドと韓国における分断克服の平和教育の比較

姜淳媛（韓神大学校）

3. UNESCO 国際理解教育についての教育社会科学的一考察：柄谷行人の交換様式論を中心に

金相奕（延世大 学校大学院）

自由研究発表 セッションF 「マイノリティと難民・移民」 10:00~12:00

座長：上別府隆男（福山市立大学）

1. タイにおけるミャンマー人移民・難民の高等教育へのアクセスの課題

上別府隆男（福山市立大学）

2. 難民絵本の「読みあい」と「語りあい」

前田君江（東京大学）・當銘美菜（目白大学）・小野寺美奈（東京家政大学）・山西優二（早稲田大学）

3. 中国の少数民族地域における学びづくりと持続可能性

蒙亮羽（聖心女子大学）

4. 外国につながる子どものためのプレクラスプログラム分析

山田文乃（立命館大学）

座長：高城宏行（玉川大学）

1. COVID-19 を国際理解教育に活かす試み

石森広美（宮城県仙台二華高等学校）

2. 外国人労働者との共生－COVID-19 禍における技能実習生をめぐる課題を手掛かりとして－
福山文子（専修大学）

3. 共生のあり方を考えさせるグローバル教育プログラム開発研究－コロナ禍の新しい生活様式
を題材として－

周星星（岡山大学）

4. 日本語教育を必要とする児童生徒を含む学級での道徳科の授業の在り方について -内容項目
「国際理解・国際貢献」と関連価値の分析から -

天野幸輔（名古屋学院大学）

自由研究発表 セッションH 「ESD」 9:30~12:00 座長:永田佳之(聖心女子大学)

1. ESD実践の差が教師の教育観と学習内容及び影響 - 研究開発学校「グローバルシティズンシップ科」の実践から -

松倉紗野香(埼玉県立伊奈学園中学校)

2. 大学における「深いESD」

丸山英樹(上智大学)

3. 人新世時代におけるESDの新たな課題 - サステナビリティ・シティズンシップを手がかりに -

神田和可子(聖心女子大学)

4. 「気候非常事態宣言」を出した自治体の全国調査報告 - 日本の気候変動教育の現状と課題 -

永田佳之(聖心女子大学)・木戸啓絵(聖心女子大学)・神田和可子(聖心女子大学)・蒙亮羽(聖心女子大学)・スモン・ピソン(聖心女子大学)

5. 教育の質的向上および再方向付けとしてのESDに関する - 考察 - 理論と実践の橋渡しをめざして -

森田育志(神戸大学附属中等教育学校・大阪府立大学)

自由研究発表 セッションI 「教育政策とIB」 9:30~11:30

座長:木村大輔(一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT))

1. 「持続可能な社会の創り手」育成に向けた学校経営:スクールリーダー、教員の資質・能力から見る学校経営の在り方についての考察

木村大輔(一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT))

2. 国際化をめぐる政策過程:学習指導要領改訂におけるIB記述の変容について

岩淵和祥(コロンビア大学)

3. 国際理解教育における評価研究の現状と課題 - コンピテンシー重視の評価から学びのプロセス重視の評価へ -

津山直樹(中央大学)

4. 国際バカロレア教育における学びの特質 - 発達段階に応じたATLスキル育成に着目して -

菊地恵美子(仙台育英学園高等学校・早稲田大学)

自由研究発表 セッションJ 「留学・海外研修」 9:30~12:00 座長:高城宏行(玉川大学)

1. デンマーク・オレロップ体育アカデミーと自由学園の交流史—デンマーク留学と国際理解—
早野曜子(自由学園)
2. 高等学校における海外研修を通じた資質・能力の育成—兵庫県の異文化理解を事例として—
藤井三和子(兵庫県立神戸商業高等学校・兵庫教育大学)
3. 在外日本人結婚移住者の教育観—台湾在住者のライフストーリーから
渡辺幸倫(相模女子大学)
4. 中等教育における長期交換留学に関する一考察
荒川裕紀(明石工業高等専門学校)
5. EQを尺度に用いた海外研修プログラムの効果検証
武知薫子(近畿大学)・服部圭子(近畿大学)

自由研究発表 セッションK 「学校教育」 9:30~11:30 座長:青木香代子(茨城大学)

1. 国語教育における国際理解教育の可能性
高松美紀(東京都立狛江高等学校)
2. アメリカの小学校における社会正義のための教育実践の事例分析—ソーシャル・アクション
に向けた試み—
青木香代子(茨城大学)・森茂岳雄(中央大学)
3. アクティブラーニングにおけるファシリテーションの現状と課題—学校教育の実践に注目し
て—
山中信幸(川崎医療福祉大学)
4. 新型コロナウイルス感染症に向き合う世界と私—国際理解教育の教材開発を通して—
松井克行(西九州大学)

自由研究発表 セッションL 「グローバル教育・市民性教育」 9:30~11:30

座長：小林亮（玉川大学）

1. 「グローバルなものの見方」の育成における国や地域による独自性の意義

大塚圭（中央大学杉並高等学校）

2. ゲーミング・シミュレーションで培う市民的資質についての考察—ジレンマを体験することの教育効果とは？—

大山正博（神戸大学）

3. マイノリティ疑似創生型ワークショップを通じたグローバル・シティズンシップ育成の試み～バーチャル体験を通じた多文化共生概念の構築に関する一考察～

由井一成（早稲田大学）・秋山尚子（横浜市立桜丘高等学校）

4. ユネスコの提唱する地球市民性の育成に向けたモラルジレンマ授業の試み

小林亮（玉川大学）

自由研究発表 セッションM「ナラティブ研究」 9:30~12:00 座長：箕曲在弘（早稲田大学）

1. 京都における大陸との交流の歴史と伝承から学ぶ「多文化共生」 中学生の学びの考察を通して

孫美幸（文教大学）

2. 歌劇「カルメン」においてロマを取り入れた学習の展開

居城勝彦（東京学芸大学附属高等学校）

3. 精霊の物語とオンライン旅——カメルーン狩猟採集社会の環境観を学ぶ

園田浩司（京都大学）・飯塚宜子（京都大学）・田中文菜（京都大学）・大石高典（東京外国語大）

4. カナダ先住民クリンギットに学ぶ物語の力 —演劇手法によるオンライン・ワークショップの開発と実践

飯塚宜子（京都大学）・園田浩司（京都大学）

5. 人類学者による自己変容型フィールド教育に向けて

箕曲在弘（早稲田大学）

1. 「人種」を問い直す国際理解教育ワークショップ –八王子国際協会・はままつ国際理解教育ネットによるハイブリッド型運営の試み–

中山京子（帝京大学）・東優也（海老名市立東柏ヶ谷小学校）・中澤純一（浜松学院中学校・高等学校）・森茂岳雄（中央大学）・山崎優菜（黒部市立村椿小学校）

2. “サステナブル・ユニバーシティ”構想とそのネットワーク化の提案

石川一喜（拓殖大学）

3. グローバル時代の大学における道德教育に関する一考 – 目白大学児童教育学科マレーシア臨地研修に焦点をあてて –

中山博夫（目白大学）

4. 外国語活動・外国語におけるコミュニケーション素地・資質を育む指導法 – TBL による「話すこと（やり取り）」の指導の工夫を通して –

奥平穰士（川崎町立川崎第二小学校・宮城教育大学）

異文化間教育学会第 42 回大会・日本国際理解教育学

会第 30 回研究大会 合同大会実行委員会

大会実行委員長	小林 亮	(玉川大学教育学部)
大会実行委員会	小原 一仁	(玉川大学教育学部長)
	寺本 潔	(玉川大学教育学部)
	高城 宏行	(玉川大学文学部)
	樋口 雅夫	(玉川大学教育学部)
	宮本 英征	(玉川大学教育学部)
	カメダクインシー	(玉川大学学術研究所)
	山田 亜紀	(玉川大学リベラルアーツ学部)
	山田 徹志	(玉川大学教育学部)

異文化間教育学会	佐藤 郡衛	(明治大学、IESJ 前理事長)
ワーキングチーム	横田 雅弘	(明治大学)
	岸 磨貴子	(明治大学)
	大船 ちさと	(国際交流基金)
	古屋 憲章	(山梨学院大学)
	工藤 和宏	(獨協大学)
	二瓶 知子	(明治大学)
	正木 奈美	(IESJ 事務局)

日本国際理解教育学会	森茂 岳雄	(中央大学、JAIE 会長)
ワーキングチーム	永田 佳之	(聖心女子大学)
	中山 京子	(帝京大学)
	釜田 聡	(上越教育大学)
	石森 広美	(宮城県仙台二華高等学校)
	藤原 孝章	(同志社女子大学)
	森田 真樹	(立命館大学)

表紙デザイン：玉川大学キャンパス 大学教育棟 2014 と玉川池の情景

異文化間教育学会第 42 回大会・日本国際理解教育学会第 30 回研究大会

合同大会プログラム

発行日 2021 年 6 月 11 日

発行者 異文化間教育学会第 42 回大会・

日本国際理解教育学会第 30 回研究大会

合同大会実行委員会

委員長 小林 亮

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学

E-mail: ibunkakan42@gmail.com

Email: jaie2021.tamagawa@gmail.com

多文化な職場の異文化間コミュニケーション

外国人社員と日本人同僚の葛藤・労働価値観・就労意識

加賀美常美代 編著

◎4180円

日本留学を経て就職した元留学生と同じ職場の日本人同僚はそれぞれ、多文化就労場面においてどのような葛藤や違和感、文化的価値観をもち、さらにそれぞれの存在は職場にどのような影響をもたらすのだろうか。質的、量的な調査をもとに多文化な職場の対人レベル、文化レベルにおける多様なコンフリクトの要因と解決に向けた方略を考察する。

多文化クラスの授業デザイン 外国につながる子どものために

松尾知明 著

◎2420円

2018年の入管法改正以降、移民受け入れに舵を切った日本だが、教育現場ではまだまだ外国につながる子どもを含めたすべての子どもに向けた授業デザインへの取り組みは進んでいない。言語と異文化への配慮を行い、多文化社会への扉を開く。全指導者必見の入門書!

海外で学ぶ子どもの教育 日本人学校、補習授業校の新たな挑戦

佐藤節衛、中村雅治、植野美穂、見世千賀子、近田由紀子、岡村郁子、渋谷真樹、佐々信行 著

◎2200円

海外で学ぶ子どもたちの歴史から現状までを概観し、グローバル化により海外で学ぶ子どもたちも多様化する中、日本人学校、補習授業校で行われている最新の教育実践を豊富な事例を踏まえ詳述する。

外国人研修生の日本語学習動機と研修環境

文化接触を生かした日本語習得支援に向けて

守谷智美 著

◎2860円

ヒューマンライブラリーへの招待 生きた「本」の語りがココロのバリアを溶かす

坪井健 著

◎2200円

日本語を学ぶ子どもたちを育む「鈴鹿モデル」

多文化共生をめざす鈴鹿市+早稲田大学協働プロジェクト

川上郁雄 編著

◎2750円

JSLバンドスケール【小学校編】／【中学・高校編】

子どもの日本語の発達段階を把握し、ことばの実践を考えるために

川上郁雄 著

◎各2200円

「日本語教師」という仕事 多文化と対話する「ことば」を育む

倉八順子 著

◎2200円

国際理解教育を 問い直す

現代的課題への15のアプローチ

日本国際理解教育学会、石森広美、釜田聡、
桐谷正信、永田佳之、中山京子、藤原孝章、
森田真樹、森茂岳雄 編著

◎2750円

原点への問いなおしからカリキュラムや授業デザインなどの実践的課題、そして多文化教育、シティズンシップ教育などの現代的課題まで、根源的な問いを立て、課題に応える。



「人種」「民族」をどう教えるか 創られた概念の解体をめざして

中山京子、東優也、太田満、森茂岳雄 編著

◎2860円

学術的見地からみた正しい認識と、これまでに日本や海外で行われた授業実践の蓄積を踏まえて、教師が教えるための小・中・高の授業プランを提案する。

イスラーム／ムスリムをどう教えるか

ステレオタイプからの脱却を目指す異文化理解

荒井正剛、小林春夫 編著

◎2530円

小・中・高校生のイスラーム知識と意識の実態、教科書記述の分析を踏まえ、教材開発、授業実践の具体例から、イスラーム=異質、怖いなどの偏見や思い込みを超えて多面的・対話的な理解を促す授業を提案する。

新版 シミュレーション教材「ひょうたん島問題」

多文化共生社会ニッポンの学習課題

藤原孝章 著

◎1980円

新たな時代のESD サステナブルな学校を創ろう

世界のホールスクールから学ぶ

永田佳之 編著・監訳 曾我幸代 編著・訳

2刷出来!

◎2750円

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
<https://www.akashi.co.jp/>

TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

*図書目録送呈 *価格税込

学校を離れる若者たち

◎ヨーロッパの教育政策にみる早期離学と進路保障
園山大祐 編
各国の政策実態を基に予防、介入、補償という観点から検討。 3300円

医師・医学生のための 人類学・社会学

◎臨床症例／事例で学ぶ
飯田淳子・錦織宏 編
医療現場で役立つテキスト。2750円

モノとメディアの人類学

藤野陽平・奈良雅史・近藤社秋編
ヒトとモノとのかかわりを通じてメディアと社会の関係を考える。
シリーズメディアの未来⑫ 2860円

研究者・研究職・大学院生のための 対話トレーニング

◎きく、伝える、分かち合う
加納圭・水町衣里・城綾実・一方井祐子編
研究者の対話力をみがく。2750円

グラウンデッド・ セオリーの構築(第2版)

キャンシー・シャーマズ 著／岡部大祐 監訳
論文執筆の多くの事例と内容を盛り込み詳説した増補版。 6050円

社会調査のための 計量テキスト分析

樋口耕一 著(第2版)
研究事例のレビューを大幅に増補し、KH Coder 3に対応。 3080円

「知らない」のパフォーマンス が未来を創る

◎知識偏重社会への警鐘
ロイス・ホルツマン 著／岸磨貴子 他 編訳
革新的教育活動の入門書。2640円

人類学者たちの フィールド教育

◎自己変容に向けた学びのデザイン
箕曲在弘・ニ文字屋脩・小西公大 編
フィールドワーク教育の実践。2640円

メディアとメッセージ

◎社会のなかのコミュニケーション
小西卓三・松本健太郎 編
多種多様なメディアは何を変えたのか。
シリーズメディアの未来⑬ 2640円

内容分析の方法(第2版)

有馬明恵 著
メッセージ内容の客観的・体系的分析の技術を、コーディングシートとテキストマッピングの2つに分けて解説。1760円

関係からはじまる

◎社会構成主義がひらく人間観
ガーゲン 著／鮫島輝美・東村知子 訳
社会構成主義の第一人者が切り拓く、新たな知の地平。 5500円

データで見る東アジア の社会的ネットワーク と社会関係資本

◎東アジア社会調査による日韓中台の比較
岩井紀子・穴戸邦章 編 4950円

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 (税込価格)
tel:075-723-0111 fax:075-723-0095 www.nakanishiya.co.jp/

日本語学習者のための 読解厳選テーマ10 [上級]

新刊

清水正幸 著

B5判 164頁 + 別冊語彙リスト8頁 + 別冊解答例4頁
2,200円(税込)

ISBN 978-4-89358-984-2

日本社会についての知識を得るだけでなく、社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につけることも目標とした読解教材。多様な視点、考え方に触れるように、1つのテーマにつき、2つの読み物とコラムを掲載。「文章を読む」「自分の考えをまとめ、話す」「他者の考えを聞く」というプロセスの中で、より広い視野を獲得し、主体的に考える力を養います。大学・大学院への進学をめざす人にもおすすめです。別冊語彙リストは：英・中語・越語訳付き。既刊の「初中級」「中級」「中上級」もぜひ。



上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる —ベストセラーの書評エッセイ24—

既刊

田中祐輔 編著 川端祐一郎、肖輝、張玥 著

B5判 240頁 + 別冊32頁 2,750円(税込)

ISBN 978-4-89358-955-2

21世紀最初の10年間に日本で広く読まれたベストセラー書籍15冊を取り上げ、これらの書籍に関する書評を通じて日本語を学びます。日本の社会や文化を取り上げる読解教材であり、自ら考え、発信する力を育成する教材でもあります。日本語能力試験N1合格をめざす学習者の利用を想定して語彙・文法の学習もサポート。「日本語」「地震」「ビジネス」「文学」「哲学」「生活」「読書」。全12課で構成。ぜひ凡人社ウェブサイトの商品ページでレビューする書籍のタイトルと目次をご覧ください。

『日本がわかる、日本語がわかる』準拠 文字・語彙・文法を学ぶための 実践練習ノート

新刊

田中祐輔 編著 牛窪隆太、陳秀茵、森篤嗣、小口悠紀子、張玥 著

B5判 192頁 + 別冊32頁 1,650円(税込)

ISBN 978-4-89358-985-9

日本語能力試験N1に出題されやすい計700の語彙と文法の説明、その言語知識の運用力を高めるための計660の設問、そして、理解と定着を図るための約10万字に上る詳しい解説を掲載。共起、コロケーション、文脈などの観点から語彙・文法を複合的に総合的なものとして捉え、日本語能力試験N1合格のための着実な力を育成することをめざします。上記の『上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる ベストセラーの書評エッセイ24』との併用がおすすめです。

日本語教師のための 日常会話力がグーンとアップする 雑談指導のススメ

既刊

西郷英樹、清水崇文 著

B5判 152頁 1,980円(税込)

ISBN 978-4-89358-944-6

日本語学習者の雑談の環境と問題点を明らかにしたうえで、雑談用の言語形式とストラテジーを中心に取り上げ、「雑談力」アップの手助けをする方法について考えた一冊。現在主流となっている「課題遂行会話」の指導に対して、雑談指導は対人関係調整の側面を重視した「語用論的指導」です。学習者が良好な社会的関係を構築・維持する「雑談力」を身につけるために、どんな指導ができるか提案します。『雑談の正体』（清水崇文著）もおすすめです。

思考力を育てる 実践！発表プロジェクト

既刊

後藤倫子 著

B5判 172頁 + 別冊36頁 2,200円(税込)

ISBN 978-4-89358-969-9

バラエティー豊かな10の活動をととして、自由に感じたり考えたりする楽しさを体験します。考えたことは文字化するだけでなく、さまざまな形で表現することで思考する能力の基礎を育成し、日本語の運用力や語学感覚を磨きます。中級から上級日本語学習者の教材や大学等の初年次教育の教材に最適です。

【各課の活動】絵を読む／詩を描く／映画をみる／日程表を作る／防災マニュアルを創る／ニュースを伝える／紹介動画を制作する／商品を売り込む／新キャラを生み出す／専門分野をわかりやすく説明する

- 麹町店 千代田区平河町1-3-13 ヒューリック平河町ビル8F
TEL: 03-3239-8673 FAX: 03-3238-9125
- 営業部 千代田区平河町1-3-13 ヒューリック平河町ビル8F
TEL: 03-3263-3959 FAX: 03-3263-3116
- 大阪店 大阪市中央区久太郎町4-2-10 大西ビルディング1F
TEL: 06-4256-2684 FAX: 03-6733-7887

書籍のお求め・
お問い合わせは…



にほんごの
凡人社

「移動する子ども」学

■川上郁雄[著]／A5判／本体2,800円＋税

「移動する子ども」学という新しい学問領域を提案。幼少期より複数言語環境で成長したという経験や記憶によって、どのようにアイデンティティが形成されるのか。移動性・複文化性・複言語性のリアリティを大胆かつ斬新に切り拓く。

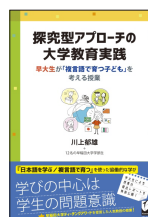


探究型アプローチの大学教育実践

早大生が「複言語で育つ子ども」を考える授業

■川上郁雄[著]／A5判／予価2,600円＋税

学生が主体的に考え、意見交流を行うプロセスを重視した新しい授業のあり方を提案。『日本語を学ぶ／複言語で育つ』を教材として学んだ早大生たちの授業実践の記録。学部生12名の提出レポートを特別公開。対話を通じた学びとは。



日本語教師教育学 近刊

■横溝紳一郎[著]／A5判／本体2,400円＋税

公認日本語教師の資格化が検討される中、成長し続ける日本語教師の育成のために教師教育者に求められる力とは何か。養成課程／初任段階／中堅段階の日本語教師という段階別に、どのような支援ができるのか、具体的な研修方法を紹介。



個に応じた英語指導をめざして

ユニバーサルデザインの授業づくり

■村上加代子[著]／A5判／本体2,200円＋税

子どもの視点から英語の読み書き習得の難しさを理解し、実態に応じた指導ができるようになることをめざす。英語教育に携わる小・中学校、特別支援などの先生を対象に、ユニバーサルデザインの配慮を施した授業づくりを提案する。



めしあがれ

食文化で学ぶ上級日本語

■畑佐一味/福留奈美[著]／A5判／本体2,000円＋税

日本の食文化をテーマに据えた内容中心の上級レベルの日本語学習者用、日本語読解教材。簡単においしく作れる人気の日本食レシピを各章で紹介。多様な日本語レベルの学習者のために、本文とレシピに英語翻訳つき。



産学連携でつくる多文化共生

カシオとムサビがデザインする日本語教育

■三代純平/米徳信一[編]／四六判／本体1,600円＋税

企業（カシオ計算機）と大学（武蔵野美術大学）が連携し、ドキュメンタリー映像を制作、発表するという産学共同プロジェクトを紹介。キャリア教育としての日本語教育の可能性を探る。社会全体で学び合う環境をつくるヒントがここに。

